「統計の日」を記念するイベント

第29回官庁統計シンポジウムが開催されました

総務省では、10月18日の「統計の日」の関連行事の一つとして、「理論家と実務家による官庁統計シンポジウム」を開催しています。

29回目を迎える今年度は、総務省・岡山県・財団法人全国統計協会連合会の主催により、2008年11月12日（水）に岡山県岡山市の岡山コンベンションセンターにおいて、『社会の情報基盤としての統計の整備に向けて－公的統計の整備に関する基本計画の目指すもの－』をテーマに約350名が参加して開催しました。

シンポジウムは（1）基調講演・報告、（2）パネルディスカッションの２部構成となっており、基調講演・報告では、始めに「公的統計の整備に関する基本計画の目指すもの」と題して、竹内啓統計委員会委員長、続いて「地域における統計データの活用～地域経済構造分析～」と題して、中村良平岡山大学大学院社会文化科学研究科教授から講演がありました。

パネルディスカッションでは、東京大学大学院総合文化研究科の廣松毅教授が座長を務め、パネリストとして、大守隆氏（内閣府政策参与）、玄田有史氏（東京大学社会科学研究所教授）、津谷典子氏（慶應義塾大学経済学部教授）及び原田泰氏（株式会社大和総研チーフエコノミスト）が出席し、パネリスト各氏それぞれの立場から、公的統計の整備に関する基本計画に関して期待する事項などについて報告していただいた後、それぞれの事項について意見交換が行われました。

また、会場フロアから、地方公共団体の人員や予算に関して意見が出されるなど、活発な討論が行われました。

MIC REPORT
エムアイシーリポート

第59回全国統計大会開催

2008年11月13日（木）、岡山県岡山市の「岡山シンフォニーホール」において、全国の統計関係者約1,400名の参加の下、「第59回全国統計大会」が開催されました。

全国統計大会では、我が国統計界の最高の栄誉とされている「大内賞」の授与、各省の統計調査に功労のあった方々の代表に対して表彰状の授与、財団法人全国統計協会連合会が主催する統計グラフ全国コンクールにおいて優秀な成績を収めた方々に対する表彰状の授与及び岡山県内の統計調査員に対する岡山県知事表彰の授与が行われました。

そのほかに、岡山県の伝統神楽である「備中神楽」の上演、「岡山県弁新発見」と題した講演が行われました。

統計界で最高の栄誉とされる大内賞

大内賞のメダル。大内博士の肖像が刻印されている

「大内賞」は、戦後の日本の統計再建に政府の統計委員会委員長として尽力した大内兵衛博士の業績を記念し、1953年に設けられたもの。わが国の統計の進歩に貢献した個人、団体などを顕彰するものとして、統計界の最高栄誉とされており、2007年度までに275名、２団体が受賞しています。2008年9月、大内賞を選考する大内賞委員会（委員長：竹内啓統計委員会委員長）は、今年度の大内賞を以下の４氏に決定し、全国統計大会にてメダル等を授与しました。

- 著書、論文等によって、わが国の統計実務の進歩に直接貢献した人
  田栗正章（たぐりまさあき）氏　（東京都品川区：元千葉大学理学部教授）
- 多年統計実務に従事して、わが国の統計に貢献した人（五十音順）
  穐元豊一（あきもととよかず）氏　（青森県青森市：統計調査員）
  竹村伊津子（たけむらいつこ）氏（東京都中野区：元財務省財務総合政策研究所調査統計部電子計算システム課長）
  山川彌榮子（やまかわやえこ）氏（徳島県徳島市：統計調査員）